

# エリア全体でのまちづくりの視点

水際線のまちづくりを進めるにあたり、エリア全体で共通して取り組んでいく視点をまとめました。

これらの視点を踏まえながら、まちづくりを進めていきます。

## 環境への配慮や気候変動への対応

- ・水際線に彩りや豊かさを生み出す新たな緑を創出し、海辺空間と一体となったまちづくりを進めます。
- ・再生材の活用やLED照明の設置などにより、環境負荷の軽減に努めます。
- ・木陰の創出や遮熱性の舗装材の活用による酷暑対策など、昨今の気候変動に対応したまちづくりを進めます。



## 2 人にやさしい快適な環境づくり

- ・歩行領域モビリティ(※)や、シェアサイクルなど多彩なモビリティにより、誰もが水際線を楽しみながら安心して移動できる環境づくりを進めます。
- ・案内サインの多言語化や歩きやすい歩行者空間の整備など、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進めます。
- ・誰もが気軽に飲食や休憩ができる施設の整備など、快適に滞在できる環境を整えます。



## 3 海辺を活用したにぎわいづくり

- ・きれいな海づくりを推進するとともに、子どもたちが水に触れ合う体験や、海の生物について学べる機会を創出していきます。
- ・海辺空間を活用したイベントの実施や、水上アクティビティ・飲食の充実などによるにぎわいづくりを進めます。
- ・水上交通で各エリアを結び、回遊性を高める取組を推進するとともに、船上から見る朝日や夜景、花火など、朝や夜のコンテンツの充実を図ります。



※歩行領域モビリティとは：歩行者空間での利用を前提とした最高速度が時速6km/h程度の小型電動モビリティ（免許不要、道路交通法上、電動車いす等と同じ扱い）